

東京都道徳教育教材集 活用のために

子供たちの道徳性を涵養する教育の一層の推進を目指し、**世代を超えて継承させたい道徳的価値を子供の心に浸透させていくために、先人の格調高い言葉や崇高な行為などをまとめた東京都独自の道徳教育教材集である。**

各学校においては、道徳の時間はもとより教育活動全体を通じて本教材を活用し、子供たちに規範意識や思いやりの心など豊かな心を育むための道徳教育の充実を図ること。

【第1章】先人のことばに学ぶ

人の心に響き人生の指針となる名言・名句、漢詩、短歌・俳句、詩、歌詞など、**先人が残した道徳的価値を内包した言葉に学ぶ。** ⇒ **言葉との出会い** 人生訓？

児童・生徒の発達の段階を考慮して、道徳の内容項目の四つの視点「主として自分自身に関すること」「主として他の大とのかかわりに関すること」「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」「主として集団や社会とのかかわりに関すること」ごとに選定・編集。

活用場面例：○ 道徳の時間の導入や終末 : きっかけやまとめに活用する
○ 学級の朝や帰りの会 : 今日の言葉や今週の言葉として紹介する
○ 学級活動 : 先人の言葉から学級会を展開する

ポイント：児童にとっては難解な言葉や文語で書かれていたり、解釈が難しかったり、児童が理解できない言葉も多い。⇒ 今、理解できなくとも、いつか言葉の意味が理解できるようになり、「あ、そうか」と心に響く時が来るかもしれない。あるいは将来、座右の銘になるような言葉と出会うかもしれない。

【第2章】先人の生き方に学ぶ

目標をもち努力し続けた人物、人や社会のために力を尽くした人物、真理や真実を追求した人物など、偉業を成し遂げた**人物の生き方に学ぶ読み物資料**。私たちに生きることの素晴らしさや人間の偉大さを教えてくれる読み物資料。 ⇒ **人の生き方との出会い** 伝記？

活用場面例：○ 道徳の時間 : 副読本的に読み物資料として活用する
○ 朝の読書 : 自分で好きなところを自由に読む
○ 学級活動 : 先人の生き方から学級会を展開する

ポイント：誰もが知っている人物の生き方を紹介しており、そのいずれもが順風満帆ではなく、多くの困難を乗り越える努力をしているなど、興味深く読むことができる。どれも比較的長文であり、読み解くだけでも時間を要する。
⇒ 純粋な伝記としても読み応えがある。

【第3章】自分を見つめて学ぶ

自分の生活や体験を振り返り、自問自答しながら「いまの自分」を見つめ、「これからの自分」の生き方を考えることができるような**資料やワークシート**。 ⇒ **自分との出会い** 学活ノート？

活用場面例：○ 道徳の時間の終末 : 自己を振り返る場面で活用する
○ 学級活動 : 道徳的価値の視点で自己を見つめる

ポイント：第3章の資料やワークシートだけでは、道徳の時間に活用しづらい面もある。
⇒ 道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、第2章の読み物資料との関連からつなげたり、学級活動につなげたりすると活用の幅が広がる。
保護者からのメッセージ欄もあり、家庭との連携に活用できる。

東京都道徳教育教材集 第一章の事例より

〔低学年〕

志有る者は 事竟に成る (こころざしあるものは ことついに成る) 5 巻 後漢書

- 1 - (2) 「志」とは、絶対にやるぞ! という強い気持ち。強い気持ちがあれば、必ずできる。
→ 低学年の児童は、少しでも困難なことに直面するとすぐにあきらめてしまうことがある。

過ちて改めざる、是を過ちと謂う (あやまちてあらためざる、これをあやまちという) 11 巻 論語

- 1 - (4) 過ちを犯してその過ちを認めず改めようとなしないのが、本当の過ちというものだ。
→ 過ちや失敗は誰にでも起こり得る。正直な心で乗り越え、伸び伸びと誠実に生きてほしい。

親しき中にも礼儀あり (したしきなかにもれいぎあり) 12 巻 ことわざ

- 2 - (1) どんなに仲の良い関係であっても相手を尊重する気持ちや態度を忘れてはならない。
→ 家族、友達、先生…、時と場にあった言葉遣いや態度で接することが大切である。

他) おなじない みみずみつお → もう 1 人の自分が自分を励ます“自己内対話”の大切さ
おかしいな → 食べたものが自分の体に摂り入れられ、自分の体をつくっている不思議さ

〔中学年〕

玉磨かざれば光無し (たまみがかざればひかりなし) 8 巻 実語教

- 1 - (2) 人は皆、様々な素質をもっている。努力しなければその輝きは失われてしまう。
→ 今、自分の中にはどんな「玉」があるのか、まずは見つめ、見付けさせたい。

義を見て為ざるは、勇無きなり (ぎをみてせざるは、ゆうなきなり) 9 巻 論語

- 1 - (3) 「義」とは、人としてなさねばならないこと、人として生きるための道理を指す。
→ その行動が正義と知りながらも、それをしようとなしないのは真の勇気がないからである。

世の中に正直が勝たないで、外に勝つものがあるか 11 巻 夏目漱石『坊ちゃん』

- 1 - (4) 坊ちゃんが言う正直とは「自分の心に従って行動する」という意味である。
→ 困難に直面しても自分に与えられた生を生きること尽くし、自己の生命を発展させる。

他) だれに見られなくても → 誰かと自分を比べることなく、自分だけの花を咲かせるために
友だち → 幼稚園の副園長が、卒園生に贈る言葉として書かれたもの

〔高学年〕

いつの時いつの月日と思いに 今年の今日の今の只今 5 巻 新渡戸稲造

- 1 - (2) スタートを切れずにいつまでも同じ場所に留まって先に進めない児童も多い。
→ 今決心したことをその瞬間から手をつける行動力が、実践力であり、目標達成につながる。

朋友を語らんか、応に切磋有るべし (ほうゆうを…、まさにならば…) 17 巻 資治通鑑 (しじつがん)

- 2 - (3) 仲のよい友だち同士とはどうあるべきかを語るならば…
→ 相互の信頼関係の下、言いにくいことも言い合うことで磨き合い、高め合う友情の大切さ。

義務心を持っていない自由は 本当の自由ではない 26 巻 夏目漱石『私の個人主義』

- 4 - (1) 我儘な自由は存在し得ない。すぐ他から排斥され踏みつぶされる… (私の個人主義)
→ 自由とは自分勝手に何をしてもよいということではない。責任を伴い、義務を伴う。

人間とは「世の中」自身であるとともに また世の中における「人」である 27 巻 和辻哲郎

- 4 - (3) 「私」は私という一個人であると同じに、「私」の生きる「社会」の一部でもある。
→ 人間とは、自、他、世人とう複数の存在を意味し、人の生きる社会的場所をも意味する。

他) 仰げば とうとし → 感謝するということが軽んじられている風潮がある現代だからこそ
星とたんぽぽ → 見えぬけれどもあるんだよ 見えぬものでもあるんだよ

道標 (みちしるべ) 第659号

平成25年5月2日
校長 稲垣 達也

東京都道徳教育教材集 第三章の事例より

〔低学年〕

「きょうも がんばろう」84 ㊦ しっかりできたときの自分に、手紙を書こう

「いつも ありがとう」96 ㊦ お世話になっている人に、ありがとうの気持ちを手紙で伝えよう

「きれいだね ふしぎだね」102 ㊦ きれいだな、不思議だなと思ったことを書こう

〔中学年〕

『ありがとう』を伝えよう」108 ㊦ お年寄りの方に、私の「ありがとう」を伝えよう

「みんなの役に立つ喜びを感じよう」118 ㊦ どんなこと、心掛けたいこと、家族からのメッセージ

「ふるさとを心に残そう」124 ㊦ お気に入りの場所 伝統や催し物など

〔高学年〕

「相手を思う心を形に表そう」107 ㊦ 時と場に応じた言葉遣いや態度を考えよう

こんな時、あなたならどうする？ → 礼儀は、自分と相手をつなぐ心の架け橋

○ 調べ学習で、地域に取材に出かけました。インタビューをお願いしたいときには？

○ 学校にいらっしゃったお客様から、校長室の場所を聞かれました。ご案内をするときには？

「家族のために進んで役に立とう」130 ㊦ 家族のために、自分にできることがきっとあるはず
家族のために、自分にできることがきっとあるはず。

○ 家族のためにしていること。 家族のためにできること。

○ 家族からメッセージをもらおう。

「世界に誇れる我が国・日本」134 ㊦ 大切にしていきたい日本の伝統や文化について書こう

○ 大切にしていきたい日本の伝統や文化について書いてみよう。

知っていますか、日本発！

～世界で認められている「日本の伝統や文化」～

Kabuki (歌舞伎)
江戸時代から続いている日本独特の演劇です。



Origami (折り紙)
1枚の紙を折って、さまざまな形を作り上げる遊びです。



日本語を語源とする英語

Haiku (俳句)
五七五。わずか十七文字で多くのものを想像させます。季語は、日本人が四季の移りや自然の変化を大切にしてきたことを示しています。

やせ蛙
負けるな一茶
これにあり
小林
一茶

◎これ以外にも「Chanoyu (茶の湯)」「Ikebana (生け花)」等たくさんあります。また、英語では、弁当箱を表すLunch box (ランチボックス) という言葉がありますが、いりどりよく、おかずが多く、栄養のバランスがよいものを「Bento (弁当)」といいます。

 大切にしていきたい「日本の伝統や文化」について書いてみよう。

5年生

6年生

21 世界にほこれるわが国・日本

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること

私たちのふるさと「日本」
この国には、伝統や文化が脈々と受けつがれている。

日本のよさを理解し、伝統や文化を大切にしておいて、切りひらくことが私たちの使命である。
そのための力を、しっかりと身につけていきたい。



世界最古の木造建築 法隆寺

法隆寺(奈良県)は約1400年前、推古15(607)年に推古天皇と聖徳太子の命により建てられた。現存する世界最古の木造建築であり、平成5(1993)年には、ユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録された。

法隆寺を見ると、当時の日本には、すでにすぐれた建築技術があったことがわかる。

例えば五重塔は、木材どうしを組み合わせた構造をしている。五重の各層は柱立していて、心柱を通すことで、地しんのしん動により各層が外れるのを防いでいる。地しんの隙に各層がそれぞれちがったゆれ方をすることでバランスが保たれ、たおれないといわれている。

